

朝晩はひんやり感じますが日中は暑い事もあるので調整できるよう半袖も長袖も用意をしましょう。今年は発熱時、新型コロナかインフルエンザかの判断も難しく、予防接種は免疫ができるまでに時間がかかりますので体調の良いときに早めに受けましょう。立川市では生後6月から小学6年までインフルエンザ予防接種の助成があります。掲示や市のHPを見てみましょう。予防接種を受けたら担任までお知らせ下さい。## 看護師 松坂美奈子

その症状 **水ぼうそうかも**

- 37～38℃くらいの発熱
- 顔、体幹、頭部にも赤い発しんがある
- かゆみの強い水ぼうが次々に見える




発しんの出方には個人差があり、特にアトピー性皮膚炎があれば、ひどくなる場合もあります。発しんが見られたら、医師の診断を受け、許可を得てから登園してください。

予防接種をしていると湿疹も少なく発熱しないこともあります。すべての湿疹がかさぶたになったら医師に## 治療証明を書いてもらってください。##

感染症情報 (<24～<263) #
水痘 43名 #溶連菌 4名 #胃腸炎 4名 #

保健行事 #
・ 毎月初め 身体測定 #
・ 13月2<日 乳児健診 #

インフルエンザ 予防接種 Q&A

- かぜよりも症状が重く、感染力も強いインフルエンザ。0、1、2歳児がかかると、肺炎やインフルエンザ脳症を引き起こすことも。予防接種を受けておくと、万が一かかっても軽い症状で済むので安心です。
- Q 去年インフルエンザの予防接種を受けたので、今年は受けなくてよい?**
 - A** 原因になるウイルスには、主にA型、B型、C型の3つがあり、年によって流行する型が違います。A型B型がよく流行しますが、毎年予防接種を受けることで、効果が期待できます。
 - Q 受けるとインフルエンザにかからないの?**
 - A** 必ず発病を防げるというものではありませんが、かかっても重症化したり、合併症を起こしたりするリスクを減らすことができます。
 - Q 予防接種の効果が続く期間は?**
 - A** 接種後、効果が現れるまでに約2週間かかり、その後半年くらいは持続します。
 - Q 接種の方法は?**
 - A** 生後6か月から受けられます。大人は1回接種、13歳以下の子どもは2回接種が必要。1回目の接種の後、2～4週間あけて2回目を接種します。ただし卵アレルギーがある子は、医師と相談しましょう。
 - Q いつごろ受けたほうがよいの?**
 - A** 最も患者数が増えるのは1月～2月ですが、流行は12月ごろから始まります。それまでに免疫をつけておきたいので、1回目は10月後半ごろ、2回目は2～4週間後に接種しましょう。
- 

#